

旭川市保健所運営協議会における報告事項

担当課 健康推進課

【報告事項】

感染症の発生状況について

【説明要旨】

本市における感染症発生状況について、次のとおり報告します。

1 全数把握対象感染症の発生状況（平成29年1月～12月）

	一類	二類	三類	四類	五類	計
平成27年	0	47	14	6	20	87
平成28年	0	54	3	48	53	158
平成29年	0	42	8	21	49	120

二類感染症は、結核のみの届出となっており、三類感染症は、細菌性赤痢1件、腸管出血性大腸菌感染症7件の届出数となりました。

四類感染症のうちE型肝炎については、平成29年は10件の届出数で、前年より大幅に減少しましたが、平成27年以前と比較すると、増加傾向にあります。

五類感染症のうち、例年より増加が見られたのは後天性免疫不全症候群で、10件の届出数となりました。また、全国的に増加が見られた梅毒については、18件の届出数となり、平成28年の25件からは減少しているものの、依然として多い傾向にあります。なお、梅毒については、平成29年10月より、本市でもHIV検査とともに、無料検査を開始しています。

2 ノロウイルス集団感染発生状況（平成29年1月～12月）

	H25	H26	H27	H28	H29
集団発生件数	23	15	10	23	10

平成29年に本所に通報のあった集団感染発生件数は、10件であり、過去5年の中でも少ない発生件数となりました。

3 インフルエンザの発生状況

平成29年冬のインフルエンザの発生は、平成29年12月中旬頃より流行期に入り、平成30年第5週（1月29日から2月4日）には、1定点当たり21.85で注意報開始基準に達し、第6週（2月5日から2月11日）には、1定点当たり46と警報開始基準となりました。第6週をピークに、その後発生数が減少し、4月初旬に警報を解除しています。

感染症の発生状況に応じ、今後も感染予防に関する普及啓発を実施します。特に平成30年は、施設向け感染症予防研修会の規模を広げ、より多くの参加を促し、集団発生防止に取り組みます。